

ほのぼの

第9号

平成17年
3月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3
TEL 078-732-5209
信行寺門信徒会



阪神大震災追悼 十周年法要

あれから十年

ありがたいことです。一月十六日一時より、阪神淡路大震災十周年追悼法要を、悲しみと喜びをかみしめながら勤めさせていただきました。

平成七年一月十七日、当寺は早朝六時ごろには、もう火が移り、考える間もなく灰燼に帰してしまいました。焼け跡にただ呆然とたつたあの日から、はや十年、夢のような、嘘のような時間に思えます。

しかし、しずかにその時間を振り返りますと、悲しく辛い日もあり、逆に、うれしい日もありました。二十八名におよぶ有縁のひとの死、お寺の再建にめどのつかない毎日など、そのなかで、多くの見知らぬひとの励ましにどれだけ勇気をいただいたことでしょうか。

この度の法要は、大阪教区三郡組のコーラスグループ「蓮の花」、当寺のコーラス「みやび会」の感動の歌。「二胡の「えま」さんと、「アワチエン」のスパラシイ演奏と踊り。さらに、本場香川県から来てくださった「讃岐うどん」の奉仕など、たくさんのお力添えをいただきました。満堂の中お勤めさせていただきました。人間の無力さを見せつけられたわたしたちは、これを力にして、人生の本質を見つめていきたいものです。

忘れられない一月十七日

住職 米 田 睦 雄

一月十七日は、私の人生において忘れようとしても忘れられない日になりました。午前五時四十六分、震度七の大地震。激しい揺れと同時に発生した火災は、つぎつぎに市街地を炎で覆いつくし、神戸の町は見る見るうちに崩壊しました。

わたしのお寺には、地震直後の午前六時ごろ火が移り、七時すぎには、本堂・庫裏・書庫は焼け落ち、自転車にいたるまで、なすすべもないまま、一時間あまりの間にすべて灰燼に帰しました。呆然としたその日から、早や十年、いろんなことが走馬灯のように脳裏を駆け巡ります。

お寺の焼け跡に残ったものは、焼けて変色した瓦と鉄とブロックだけ。書庫に納められていた『一切経』が名残りを惜しむかのように、燃え続けていたのが眼に焼き付いて、忘れられません。

着の身着のまま、近くの大黒小学校に避難し、4月十日、焼け跡に工事現場の事務所のようなプレハブのお寺が建つまでの三ヶ月間、お世話になりました。大地震

で丸裸になり、プライバシーのない避難所生活。そこで受けた多くの善意とご支援には、ただただ感謝するばかりです。

暑さ寒さが外気と同じトタン張りのプレハブ生活。区画整理事業による足かせと、経済的に厳しい状況で、お寺の再建実現が見えてこない日々。いま思えば、懐かしさも感じられる面もありますが、口では言えない毎日でした。

しかし、ありがたいことです。「仏法力不思議」としか言いようがありません。仏祖のご加護と有縁の皆様のお力添えをいただき、再建復興の大事業の成就にむけて、生きてこれたことが、うれしく、ありがたい感じられます。

あるお方が、「お金が有り余っている中で、建てたのと違って、苦勞して、ようやく建ったお寺だから、一層ありがたいです」とおっしゃって下さいました言葉が、今も耳に響いております。

このお寺が、お念仏を伝える道場として、その役目を全うするためのお手伝いをさせていただき、「いのち」が、「今、ここに」あることをご支援下さった皆様と共に、喜ばせていただきます。

合掌

— 十周年追悼法要パンフレットより —

御念仏に支えられて、蓮の花（大阪のお寺）とみやび
会（信行寺）の仏教讃歌の合同コーラスの模様



えまさんの「いのちの営みが感じられる音楽」と言わ
れる二胡と歌声でコンサートが始まり、テワチエンの世
界へ…。感動のひとときをいただきました。



震災十年をふり返って

震災でお父さんを亡くされた

平川 種雄 さん



大震災で父を亡くし
追悼法要に参拝した

平川 種雄 さん

手次ぎ寺の神戸市須磨区・
信行寺で1月16日に営まれた
阪神淡路大震災10周年追悼法
要で献灯を担当した。

本堂前に建つ震災モニュメントには大震災で犠牲とな
った同寺門信徒28人の名前が刻まれ、平川さんの父
・晴喜さん（当時75）もその一人。

震災があった1月17日、仕事を終えてすぐに神戸市
須磨区の両親が住む実家へと駆けつけたが、周辺一帯
は壊滅状態。「どれが自分の家かわからない状態だっ
た。今も語るのはつらいが…。救出された母を病院へ
運び、すぐに戻って父を探した。でもあつという間に
火の手が回り…」と言葉を詰まらせた。翌18日の夕方、
全焼した自宅跡から晴喜さんのお骨を拾い、ビニール
袋に入れ、後日同寺へ納めに行ったという。

「母はあの時の骨折が完治せず、今日は母に代わっ
て参拝した。あの日のことは忘れたいけど、簡単には
忘れるわけにはいかない」と静かに語っていた。61歳。

二月一日付

本願寺新報より

「震災にあった想い」

青木 一江 さん

あの日我家は全壊、後に想ったことですが私は二階の
階段の下敷きになって三時間半、一瞬何が起きたか分ら
ない状態、上の方でざわざわした気配、うすれる意識、
死を予感。長い時間の後、掘り出され西市民病院へ。し
かし混乱の中で二時間半も放置。応急診断の結果は腰椎
骨折で郊外の神出病院へ半年間の入院でした。一度は死
を覚悟した私に今、与えられている命、唯々、南無阿弥
陀仏の合掌ばかりです。

渡辺 由子 さん

テレビ放映を見て、十年前のことを思い出し涙が出ま
したが、今は人生を楽しく頑張っています。

横田 伊津子 さん

二階は斜めにずれ、全壊の中、いつも枕元に経本を置
いて寝ている部屋だけは、なんとか押しつぶされずに助
かりました。近くでパチパチと火花が見え、外れたガス
管の恐怖は忘れられません。思えばこの十年間は嵐のよ
うに過ぎました。人の心の醜い所も見ましたが又、やさ
しさも充分、心にしみました。

震災から十年、成人式を迎えて

石田健太郎

小学校四年生だった僕は、震災の日からしばらく、高尾台の親戚の家で避難生活を送りました。僕が通っていた大黒小学校は、体育館はもちろん、教室も校庭もすべて避難所となっていました。当然授業などできるはずがありませんでした。やがて少し離れた千歳小学校で授業は再開されましたが、友達是他所へ避難して減っていましたし、違う小学校での授業はなんだか落ち着きませんでした。高尾台からの登校は三〇〇四〇分でしたが、下校には一時間かかったという事が思い出されます。通い慣れた大黒小学校での授業再開は、新年度を迎えた四月のことでした。

それでも今、あの時の僕がどれだけめづまれていたのか、改めて思います。多くの人が命を失い、家族、仕事を失いました。僕はそのうちの何一つ、失わずにいたのです。どんなに感謝しても足りないほど幸せなことだと思えます。

震災から十年経った今年、折りしも僕は成人式を迎えました。今まで出会った人、まだ見ぬこれから出会う人々に感謝しながら、一日一日を大切に生きていきたいと思えます。

千の風になって

a thousand winds

作者不明 日本語詩 新井 満



私のお墓の前で 泣かないでください

そこに私はいません 眠ってなんかいません

千の風に 千の風になって

あの大きな空を 吹きわたっています

秋には光になって 畑にふりそそぐ

冬はダイヤのように きらめく雪になる

朝は鳥になって あなたを目覚めさせる

夜は星になって あなたを見守る

私のお墓の前で 泣かないでください

そこに私はいません 死んでなんかいません

千の風に 千の風になって

あの大きな空を 吹きわたっています

千の風に 千の風になって

あの大きな空を 吹きわたっています

あの大きな空を 吹きわたっています

コーラス「みやび会」で
この歌の練習をしています。



「谷川さん、おめでとー！」



おかげさまで 念仏奉仕団20回参加

谷川 俊雄

報恩講にお参りさせていただきました時、ご院主さんから、「この本山の念仏奉仕団参加が20回になりますので、表彰してあげます」ということでした。

そして、法要開始の前に記念品を頂戴いたしました。

その後、「みなさまも頑張って20回達成してください。

表彰してあげますよ」とのお言葉があり、院主さまの奉仕団に対するお心づかいに感激を新たにしましたことございます。帰ってそれを開いてみると琥珀の念珠でした。

「あ、これは」と思い、早速その念珠を持ってお勤めをさせていただきました。

「飛雲の茶碗と琥珀の念珠」はわたしの宝として生涯大切にいたします。お念珠は命の有る限り、大切に使用させていただきます。

20年前、坊守さんが「念仏奉仕団に参加しませんか。婦人会で計画したのですが、人数が足りないなので男のことも一緒に行きましょう」と勧めてくださったのがご縁でした。

20回、夢のようなことです。それが元気に達成できたことは、ひとえに仏祖のご加護とみなさまのお蔭とありがたく感謝いたしております。

合掌



『思い出』の写真

(震災以前のお寺での花まつり)

ご案内コーナー

信行寺門信徒会総会と法話のご案内

皆様のご協力のお蔭で門信徒会が発足できまして、早や三年になります。

さて左記のとおり総会を行いますので、是非とも、ご参集よろしくお願い申し上げます。

なお、当日は総会のあと、ご住職の法話がありますのでお参りください。

記

日時 平成十七年四月二十三日(土)

午後二時～午後四時

場所 信行寺(〇七八一七三二一五二〇九)

◎平成十七年度の年会費一、二〇〇円は当日納入してください。

◎当日欠席のお方は振込み下さい。

郵便振替の番号等は次のとおり

(記号番号) 一四三六〇一六四一〇六八三一

(名 称) 信行寺門信徒会



参拝旅行のご案内

親鸞聖人

関東ご旧跡巡拝一泊旅行

日時・平成十七年四月二十六日(火)

～二十七日(水)

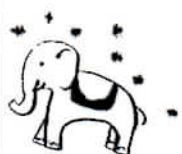
◎申し込みはなるべく早くお願いします。



お釈迦さま生誕お祝い

花まつり

四月十日(日)正午



ありがとうございました!!

皆様のおかげで、大震災十周年追悼法要をおつとめさせていただきました。そのご懇志から、新潟地震とスマトラ島沖津波の災害復興と人道支援義援金として二十万円寄付させていただきました。住職

編集後記

この度は一月十七日の震災十周年を特集致しました。皆様各々のあの日の想いと今後の歩みの指針にしていただければ幸いです。

編集委員一同